



神奈川県 川崎市遊技場組合
「養護学校への物品支援から発展した学校行事
『芸術鑑賞』主催」事業



川崎市遊技場組合
組合長
吉澤和久さん

子どもたちに芸術鑑賞の
機会を提供する継続的試み

2010年から継続して開催している芸術鑑賞会
子どもの頃に体験したことは、その人の人となりの形
成の大きな要素となる。子どもたちの成長に合わせて、さ
まざまな体験の機会を用意することは、社会や大人にとつ
てのひとつの責務と言ってもいいだろう。

川崎市遊技場組合では、2001年から毎年、市内にあ
る養護学校などを慰問し、学用品などを寄贈してきた。そ
の活動をさらに発展させ、子どもたちにひとつの体験学
習の機会を用意するという目的で、2010年から川崎市
教育委員会と協力して、養護学校の児童を招待して、芸
術鑑賞会を開催している。この鑑賞会は、夏休みの登校
日に合わせて開催されているもので、「中国民族芸術団」
による伝統的な雑技や京劇などを鑑賞することで、普段
触れることが少ない芸術について学ぶ機会になるととも
に、子どもたちの夏休みの思い出づくりや情操教育をね
らいとしている。

川崎市遊技場組合のスタッフは毎回、教育委員会や学
校関係者と協力しながら準備を進め、鑑賞会当日も同組
合の役員・職員が会場スタッフとしてサポートに努めてい
る。川崎市教育委員会では、この事業を毎年、年間計画
に組み入れていることからわかるように、教育の一環と
して欠かすことのできない行事となっている。

中国民族芸術団は名古屋市を拠点に活動を続けてい
る団体で、雑技や京劇だけでなく、舞踊、音楽、武術、伝承
芸能などの幅広いレパートリーを持ち、テレビ出演や地
方公演も数多く展開している。

獅子舞や京劇に子どもたちから歓声があがる

第5回目となった昨年の「『中国民族芸術団』雑技鑑賞
会」は、8月26日に川崎市高津区にある川崎市立中央支
援学校の体育館を会場にして開催された。招待された子
どもたちは、川崎市立中央養護学校、新日本学園、川崎
愛児園しいの実会などの児童496名。

当日は、高さ2mもある一輪車を使った演技や、中国の



『西遊記』に題を取った孫悟空と白骨精の立ち回り



舞台から降りてフロアを練り歩く獅子



中国民族芸術団の二人

伝統芸である獅子舞、京劇などが披露された。最初に披
露された獅子舞では、演舞の途中で獅子が舞台からフロ
アに降り、子どもたちの間を練り歩いた。獅子が大きく口
を開けて近づくと、子どもたちから大きな歓声があがった。

京劇では『西遊記』に題を取った演目が演じられたが、
孫悟空と妖怪・白骨精のユーモラスで軽快な立ち回りに、
会場の子どもたちから笑いや拍手がわき起こった。また、
京劇終了後には出演者2人との記念撮影の場が設けら
れ、子どもたちが長い列を作った。さらに、一輪車による
曲乗りや皿回しなども演じられ、招待された子どもたち
にとっては楽しい夏の日となった。

教育委員会や学校関係者からは、「長年にわたり芸術
鑑賞を夏休みの登校日に開催してもらい、感謝している。
今後も継続開催を希望している」と、大きな期待が寄せら
れている。主催した川崎市遊技場組合の吉澤組合長は、
「これらひとつの体験学習になるのでは。子どもたちが喜
ぶ姿を目の前で見ることができてうれしい」と語る。



高さ2mもある一輪車による曲乗り

また、芸術鑑賞会の日を楽しみにしているという施設
の子どもたちからは毎年、鑑賞会後に感謝を伝えるかわ
いらしい絵や、興奮冷めやらない手紙などが川崎市遊技
場組合にたくさん届けられるが、組合ではこうした絵や手
紙を見るにつけ、この事業を継続していこうと意を強くし
ているという。なお、当日の様子は、神奈川新聞や地域情
報誌のタウンニュースなどで取り上げられた。



鑑賞会後に子どもたちから届くお礼の絵